

第8回 不定人称受動文

教科書の該当ページ：44 ページ、52～53 ページ、62 ページ、112 ページ、178～180 ページ

不定人称受動文 → 教科書第6課②、第7課④

フィンランド語にも受動文があります。しかし、フィンランド語の受動文は英語の受動文と機能が異なっています。英語の受動文には、能動文の主語を「降格」し、同時に能動文の目的語を主語に「昇格」という二つの機能があります。それに対して、フィンランド語の受動文には前者の機能しかありません。したがって、フィンランド語の受動文には主語がないことになります。フィンランド語の受動文が不定人称受動文と呼ばれるのはこのためです。主語がないので、主語と動詞の一致も起こりません。フィンランド語の受動文は、主語を明らかにしたくないときに用いられます。

例) 日本人は魚をたくさん食べる。(能動文) Japanilaiset syövät paljon kalaa.
日本では魚をたくさん食べる。(受動文) Japanissa **syödään** paljon kalaa.

フィンランド語の不定人称受動文には目的語を主語に「昇格」する機能がないため、目的語を持たない能動文からも受動文を作ることができます。

例) フィンランド人はよくサウナに入る。(能動文) Suomalaiset usein käyvät saunassa.
フィンランドではよくサウナに入る。(受動文) Suomessa usein **käydään** saunassa.

話し言葉では、不定人称受動文が「～しよう」という勧誘の意味でも使われます。

例) 日曜に映画に行きましょう。 **Mennään** leffaan sunnuntaina.

動詞の分類 → 教科書第11課⑥

フィンランド語の動詞は、不定詞の形態によって7つのグループに分けられます。動詞の変化形はグループごとに作り方が決まっているので、それぞれの動詞がどのグループに属するのか、知っておかなければなりません。動詞のグループは、不定詞の末尾によって見分けることができます。

- | | |
|----------|--|
| グループ I | 不定詞が -a あるいは -ä で終わる。 |
| グループ II | 不定詞が -da あるいは -dä で終わる。 |
| グループ III | 不定詞が -la, -na, -ra あるいは -lä, -nä で終わる。 |
| グループ IV | 不定詞が -sta あるいは -stä で終わる。 |
| グループ V | 不定詞が -ta あるいは -tä で終わる。 |
| グループ VI | 不定詞が -ita あるいは -itä で終わる。 |

グループⅦ 不定詞が-eta あるいは-etä で終わる。

動詞の語幹の作り方 → 教科書第 11 課⑥

動詞の語幹の作り方は動詞のグループによって異なります。

- グループⅠ 不定詞末尾の-a/-ä を取る。
グループⅡ 不定詞末尾の-da/-dä を取る。
グループⅢ 不定詞末尾の-la/-lä, -na/-nä, -ra を取って-e をつける。
グループⅣ 不定詞末尾の-ta/-tä を取って-e をつける。
グループⅤ 不定詞末尾の-a/-ä を取って、その前の-t を-a/-ä に変える。
グループⅥ 不定詞末尾の-a/-ä を取って-se をつける。
グループⅦ 不定詞末尾の-a/-ä を取って、その前の-t を-ne に変える。

不定人称受動形の作り方 → 教科書第 16 課⑦

不定人称受動形の作り方は動詞のグループによって異なります。グループⅡからグループⅦまでの動詞は、不定詞に-an あるいは-än をつけると不定人称受動形になります。-an と-än は母音調和によって決まります。

- 例) グループⅡ juoda「飲む」 → juodaan
グループⅢ mennä「行く」 → mennään
グループⅣ pestä「洗う」 → pestään
グループⅤ tavata「会う」 → tavataan

グループⅠの動詞は、不定詞末尾の-a/-ä を取り去り、-taan あるいは-tään をつけて不定人称受動形を作ります。ただし、不定詞が-aa/-ää で終わっている場合は、末尾の-a/-ä を取り去ると共に、その前の-a/-ä を-e に変えてから-taan あるいは-tään をつけます。-taan と-tään は母音調和によって決まります。

- 例) グループⅠ puhua「話す」 → puhutaan
グループⅠ laula「歌う」 → lauletaan

期間の表現 → 教科書第 5 課④

動詞が表わす動作や状態が継続している期間を表わすには、「基数詞+(時間、日、週、月、年など)単位を表わす語」で表わします。このとき、基数詞が2以上の場合、単位を表わす語は単数属格になります。また、基数詞が1の場合は、単位を表わす語が単数属格になります。基数詞1も属格形の yhden になりますが、yhden はしばしば省略されます。

- 例) ペッカはリーサを1時間待っている。 Pekka odottaa Liisaa (yhden) tunnin.

ペッカはリーサを3時間待っている。

Pekka odottaa Liisaa kolme tuntia.